

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

トマト苗トラップにおけるトマト黄化葉巻病の発病状況と防除対策（技術情報第14号）  
について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考資料としてご活用下さい。

## 記

### 1 調査結果

- (1) 8月26日～9月3日かけて冬春トマト栽培地域の野外に設置したトマト苗トラップの発病株数は、熊本市が12株中3株、玉名市が11株中3株と前年比多であった。八代市では発病を認めなかった（表1）。
- (2) 苗トラップと同じ地点に設置した黄色粘着板によるコナジラミ類捕獲数は、8月2半旬～9月6半旬まで熊本市、八代市が前年比少、玉名市が前年比やや少であった。なお、3地点とも8月6半旬以降増加傾向にある（図1）。

### 2 防除対策

コナジラミ類の密度は、前年よりやや少ないが、苗トラップにおける発病株数は多く、屋外の保毒虫率は平年より高いと推測され、トマト黄化葉巻病の発生に注意が必要である。特に、生育初期に感染すると被害が大きくなるので、以下の防除対策を徹底する。

- (1) ハウス周辺及び内部の雑草は、タバココナジラミの生息・増殖場所となる。栽培期間中は定期的に除草する。
- (2) 野良生えトマトは重要な伝染源となるので、必ず除去する。
- (3) ハウスの開口部（サイド、谷部など）には目合いは0.8mm以下の防虫ネットを必ず設置し、タバココナジラミの侵入を防止する。侵入を完全に防止するためには、目合い0.4mm以下が必要であるが、その場合、高温対策に留意する。
- (3) ハウス内に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類の早期発見に努める。
- (4) ハウス内の発病株は二次伝染源となる。見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し埋没処分するか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。
- (5) 育苗期後半もしくは定植時に粒剤を施用する。また、ハウス内のタバココナジラミによる二次伝染を防ぐため、薬剤防除を併せて行う。

（注意：農薬使用にあたっては、使用方法、使用時期、総使用回数等を厳守する。）

熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）  
担当：荒木 TEL：096-248-6490

表1 冬春トマト栽培地域に設置したトマト苗トラップの黄化葉巻病発病状況（9月）

| 地点名 | 発病株数/供試株数 |       |       |       |       |
|-----|-----------|-------|-------|-------|-------|
|     | 平成22年     | 平成21年 | 平成18年 | 平成17年 | 平成16年 |
| 熊本市 | 3/12      | 0/12  | -     | 1/12  | 9/12  |
| 玉名市 | 3/11      | 0/12  | 1/12  | 7/12  | 8/12  |
| 八代市 | 0/11      | 1/12  | 0/12  | 1/12  | 0/12  |

注) 設置期間は、8月26日～9月3日。回収後、隔離温室で1ヶ月栽培し発病の有無を確認。  
 H16は9月2～9日、H17は9月8～15日、H18は9月5日～11日、H19年は9月4日～11日、  
 H21年は8月27日～9月1日に設置。

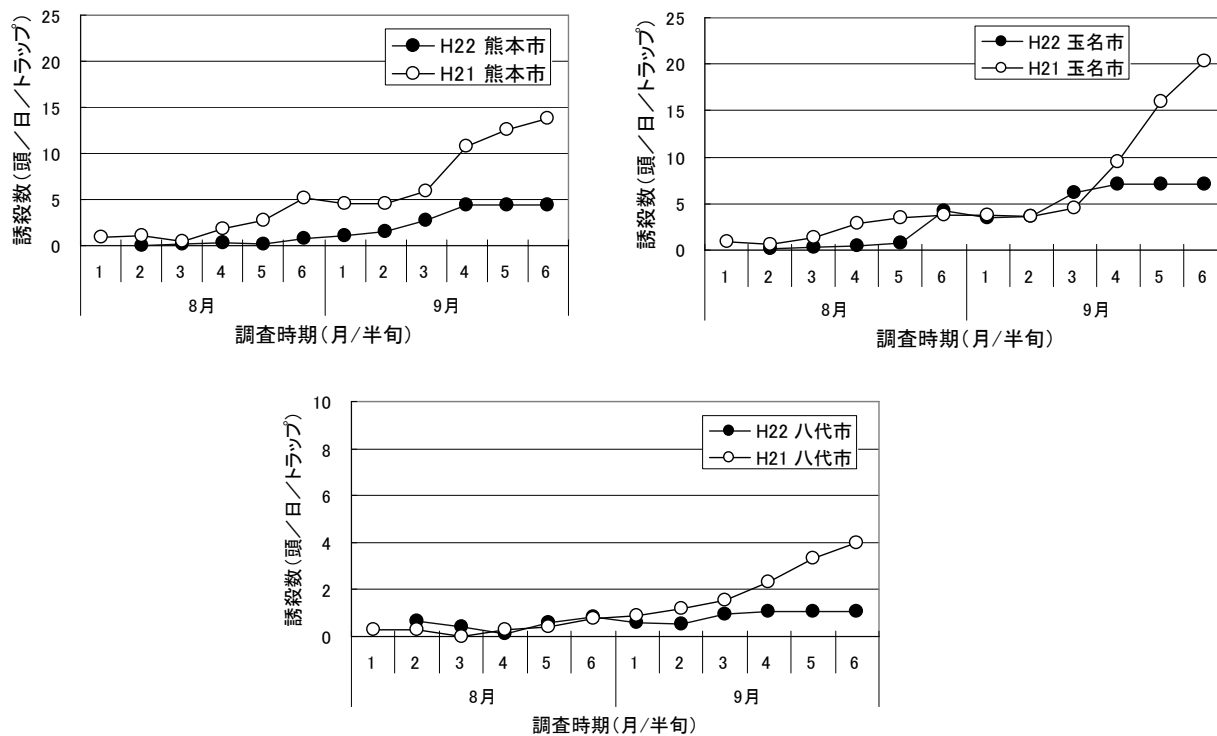


図1 平成22年度野外コナジラミ類の黄色粘着板による誘殺数（頭/日/トラップ）  
 注) 黄色粘着板（10×10cm）は、1地点当たり約5m間隔で3枚設置した。